せいけん詩集

第六十三篇

作：近藤せいけん

「遥かなる旅路」

北風が吹いている　冷たい風
南風が吹いている　暖かい風
東風が吹いている　旭の香りのする風
西風が吹いている　夕焼けの匂いのする風

四季おりおりの風
昔から変わらない

しかし人の一生は
さまざまの風が吹く
時に優しく　時に激しく
ゆっくりと　早く
まるで回転木馬のように
思い出をつくってゆく

過ぎし日も　今日も
思い出をつくる旅路
人生は遥かなる旅路